

# 日本と アフリカ



外務省



日本から約1万キロメートル以上の遠方に位置するアフリカ。  
距離はとても遠いのですが、私たちは毎日の暮らしの中で、  
たくさんの“アフリカ”と出会っています。  
同じように、アフリカの中にも、さまざまな“日本”があります。

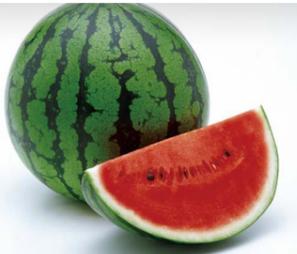
「共に成長するパートナー」として  
私たちの絆は、より確かなものとなっています。  
だから、もっと知ってみませんか？  
魅力いっぱいのアフリカのこと、日本のパートナーとしてのアフリカのこと。

# 遠くで

※本パンフレットにおける「アフリカ」は北部アフリカ諸国とサハラ砂漠以南のアフリカ諸国(サブサハラ・アフリカ)を含めた国々(54か国)を対象としています。



**ガーベラ**  
花屋さんでよく見かける花、ガーベラ。種類も豊富で、2,000種以上あると言われていて。別名アフリカセンボンヤリと呼ばれるように、原産地は南アフリカ。



**ワイン**  
気候に恵まれて高い品質を誇る南アフリカのワイン。生産の中心は西ケープ州で、ここは世界遺産にも登録された植物保護地域のため、環境に配慮したグリーンラベルの取組も始まっています。



**シアバター**  
西アフリカに育つシアの木の種子から採れる油脂で、現地では食用や薬として用いられますが、ヨーロッパの化粧品メーカーがその効能に着目して製品化したことで有名に。石けんやクリームに配合され、世界中の人々を美しくするのに一役買っています。

**星の王子さま**  
不朽の名作「星の王子さま」。作者はフランス人作家、サンテグジュペリですが、その舞台はサハラ砂漠。私たち日本人は、幼い頃からアフリカに出会っていたことになりませう。

**故マータイさん**  
環境や人権への取組でノーベル平和賞を受賞したケニアのワンガリ・マータイさん。日本の「もったいない」という理念を世界に提唱した、日本人にとっては忘れ得ぬ人です。



**スイカ**  
スイカの起源はアフリカ南部のカラハリ砂漠周辺で、例えばボツワナには少なくとも300種の野生種のスイカが自生しています。現地のスイカは甘くなく、飲み水の代わりのようなもの？



**オクラ**  
アフリカ原産の野菜と言えば、エジプトのモロヘイヤが有名ですが、それ以上に日本の食卓によく登場するのが夏の定番野菜・オクラ。生まれ故郷はアフリカ北東部。



H a n d i n H a n d w i t h a M o r e D y n a m i c A f r i c a

**レアメタル**  
携帯電話・スマートフォンやLED照明、自動車の排気ガス浄化装置等、日本の主要産業に不可欠な素材・レアメタル。中でも白金、マンガン、バナジウム等をアフリカから多く輸入しています。



**ゴマ**  
健康志向の高まりで注目を集めるゴマ。その原産地はアフリカのサバンナ地帯。日本はブルキナファソやナイジェリア、タンザニア、モザンビーク、エチオピアから輸入しており、主に製油用(ごま油)に利用されています。



**チョコレート**  
チョコレートの原料となるカカオ豆の約80%をガーナから輸入しています。カカオの樹は学名を「テオブロマ・カカオ」といい、テオブロマの意味はギリシヤ語で「神様の食べ物」。



**コーヒー**  
日本は、アメリカ、ブラジル、ドイツに次ぐ、世界第4位のコーヒー消費国。コーヒー発祥の地とも言われるエチオピアをはじめ、タンザニア、ケニア等から輸入しています。



**タコ**  
アフリカから輸入されている海産物の代表格がタコ。モーリタニアまたはモロッコ産のタコが多く日本で消費されています。みんなが大好きな「たこ焼き」の中にもアフリカが隠れていますよ。



**グレープフルーツ**  
爽やかな酸味とほのかな苦みが特徴のグレープフルーツ。アメリカに次いで、多く輸入されているのが南アフリカ産で、旬はフロリダ産が終わった6月～11月頃。



**ルイボスティー**  
南部アフリカの人々の中で飲み続けられてきたルイボスティーは、アフリカに自生する植物から作ったお茶。カフェイン・ゼロな上、抗酸化物質が含まれていることから、健康茶として人気に。



01



**アフリカの概要**  
アフリカの基本情報  
03

**アフリカの経済成長1**  
成長大陸アフリカ  
05

**アフリカの経済成長2**  
「共に成長するパートナー」として  
07

**SDGs**  
持続可能な開発目標(SDGs)とアフリカ  
09

# アフリカ

**平和と安定**  
成長の礎  
平和と安定のために  
11

**アフリカ開発会議**  
日本が主導するアフリカ開発  
13

**アフリカ開発会議**  
TICADプロセスの発展  
15

**文化・スポーツ**  
アフリカ、それは「いのち」の鼓動  
17

02

# アフリカの基本情報

54か国を擁するアフリカ大陸は、東西南北及び中部の5つのエリアに区分されます\*。  
 北部アフリカを除くサハラ以南のアフリカは「サブサハラ・アフリカ」と呼ばれています。 \*アフリカ連合(AU)の分類基準による。

## アフリカの概要 Africa Now

●アフリカに暮らす日本人は約6,200人(出典：海外在留邦人数調査統計2022年10月)

●日本に暮らしているアフリカ人は約2万1,000人(出典：法務省「在留外国人統計」2022年6月)



ルワンダの首都キガリ  
 (写真提供：今村健志朗/JICA)



東京

### 西部アフリカ(15か国)

<b>ガーナ共和国</b> 首都:アクラ 人口:3,240万人 主要言語:英語	<b>カーボベルデ共和国</b> 首都:プラヤ 人口:60万人 主要言語:ポルトガル語、クレオール語	<b>ガンビア共和国</b> 首都:バコジュール 人口:260万人 主要言語:英語、マンディンゴ語、ウォロフ語	<b>ギニア共和国</b> 首都:コナクリ 人口:1,390万人 主要言語:仏語	<b>ギニアビサウ連邦共和国</b> 首都:ビサウ 人口:210万人 主要言語:ポルトガル語
<b>コートジボワール共和国</b> 首都:ヤムスクロ 人口:2,770万人 主要言語:仏語	<b>シエラレオネ共和国</b> 首都:フリータウン 人口:870万人 主要言語:英語、メンテ語	<b>セネガル共和国</b> 首都:ダカール 人口:1,770万人 主要言語:仏語、ウォロフ語	<b>トーゴ共和国</b> 首都:ロメ 人口:870万人 主要言語:仏語	<b>ナイジェリア連邦共和国</b> 首都:アブジャ 人口:2億1,670万人 主要言語:英語、ハウッサ語、ヨルバ語、イボ語
<b>ニジェール共和国</b> 首都:ニアメ 人口:2,610万人 主要言語:仏語、ハウッサ語	<b>ブルキナファソ</b> 首都:ワガドゥグワ 人口:2,210万人 主要言語:仏語、モリンバ語、ディウラ語、グルマンチ語	<b>ベナン共和国</b> 首都:ポルトルノ 人口:1,280万人 主要言語:仏語	<b>マリ共和国</b> 首都:バマコ 人口:2,150万人 主要言語:仏語、バンハラ語	<b>リベリア共和国</b> 首都:モンロビア 人口:530万人 主要言語:英語

### 中部アフリカ(9か国)

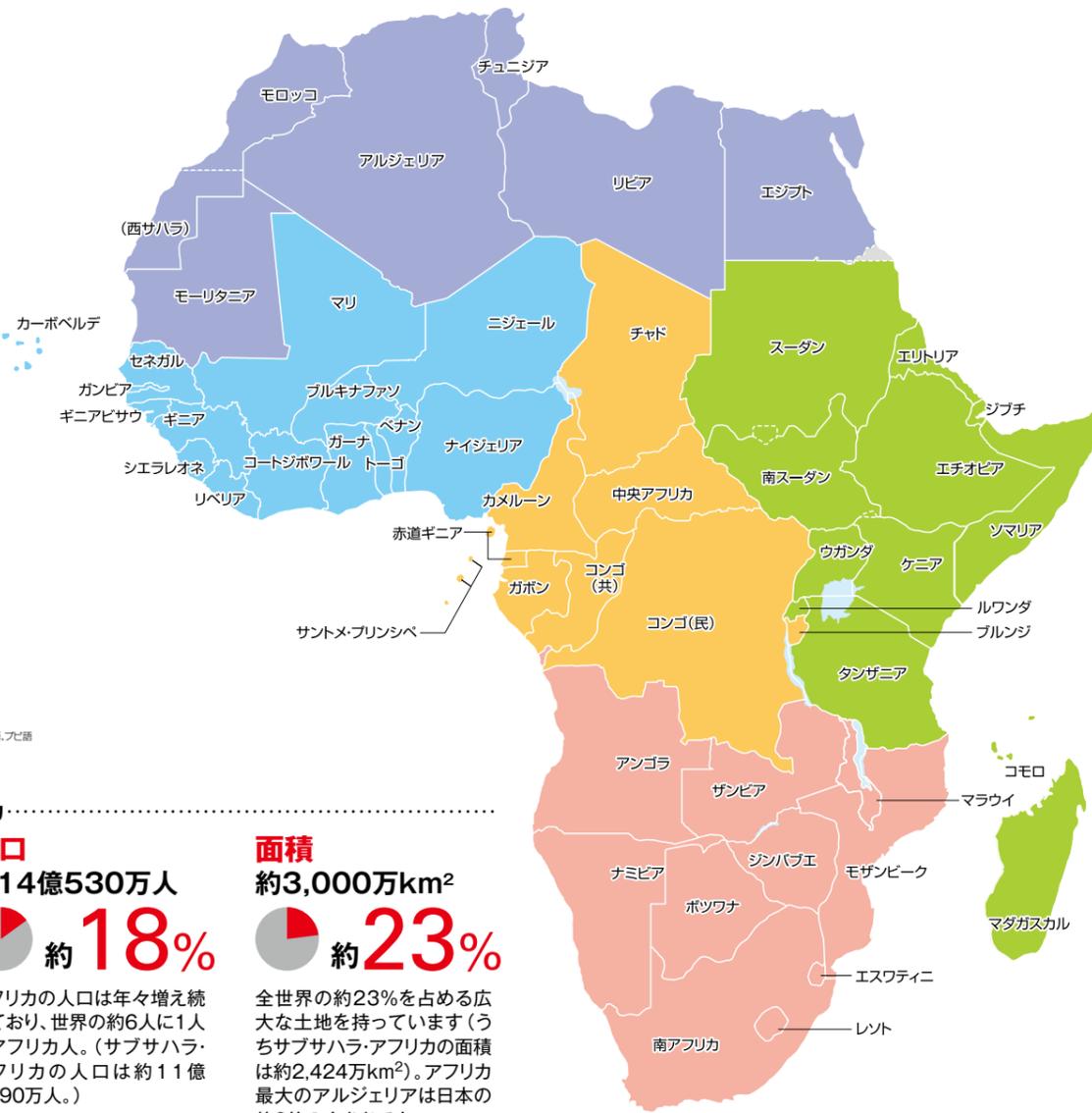
<b>ガボン共和国</b> 首都:リーブルビル 人口:230万人 主要言語:仏語、ファン語	<b>カメルーン共和国</b> 首都:ヤウンデ 人口:2,790万人 主要言語:仏語、英語	<b>コンゴ共和国</b> 首都:ブラザビル 人口:580万人 主要言語:仏語、リンガラ語	<b>コンゴ民主共和国</b> 首都:キンシャサ 人口:9,520万人 主要言語:仏語、キコンゴ語、リンガラ語	<b>サントメ・プリンシペ民主共和国</b> 首都:サントメ 人口:20万人 主要言語:ポルトガル語	<b>赤道ギニア共和国</b> 首都:マラボ 人口:150万人 主要言語:スペイン語、仏語、ポルトガル語、ファン語、アビム語
<b>チャド共和国</b> 首都:ンジャメナ 人口:1,740万人 主要言語:仏語、アラビア語	<b>中央アフリカ共和国</b> 首都:バンギ 人口:500万人 主要言語:仏語、サンゴ語	<b>ブルンジ共和国</b> 首都:バニキ 人口:1,260万人 主要言語:仏語、キルンディ語	<b>タンザニア共和国</b> 首都:ドドマ 人口:6,330万人 主要言語:スワヒリ語、英語	<b>モザンビーク共和国</b> 首都:マプト 人口:3,310万人 主要言語:ポルトガル語、バンツワネ語	<b>レソト王国</b> 首都:マセリ 人口:220万人 主要言語:英語、ソト語

### ●日本に暮らすアフリカ人の国別ベスト3

1.ナイジェリア	3,650人
2.ガーナ	2,690人
3.エジプト	2,290人

出典:法務省「在留外国人統計」2022年6月

### ●数字で見る世界の中のアフリカ



### 北部アフリカ(6か国)

<b>アルジェリア民主人民共和国</b> 首都:アルジェ 人口:4,540万人 主要言語:アラビア語、仏語	<b>エジプト・アラブ共和国</b> 首都:カイロ 人口:1,200万人 主要言語:アラビア語	<b>チュニジア共和国</b> 首都:チュニス 人口:1,200万人 主要言語:アラビア語、仏語	<b>モーリタニア・イスラム共和国</b> 首都:ヌアクシュト 人口:490万人 主要言語:アラビア語、仏語	<b>モロッコ王国</b> 首都:ラバト 人口:3,780万人 主要言語:アラビア語、仏語	<b>リビア</b> 首都:トリポリ 人口:700万人 主要言語:アラビア語

### 東部アフリカ(14か国)

<b>ウガンダ共和国</b> 首都:カンパラ 人口:4,840万人 主要言語:スワヒリ語、ルガンダ語、スヒリ語	<b>エチオピア連邦民主共和国</b> 首都:アディスアベバ 人口:1億2,000万人 主要言語:アムハラ語、英語	<b>エリトリア国</b> 首都:アスマラ 人口:370万人 主要言語:ティグリニヤ語、アラビア語、英語、諸民族語	<b>ケニア共和国</b> 首都:ナイロビ 人口:5,620万人 主要言語:英語、スワヒリ語	<b>コモロ連合</b> 首都:モロニ 人口:90万人 主要言語:仏語、アラビア語、コモロ語
<b>ジブチ共和国</b> 首都:ジブチ 人口:100万人 主要言語:アラビア語、仏語、ソマリ語	<b>スーダン共和国</b> 首都:ハルツーム 人口:4,600万人 主要言語:アラビア語、英語	<b>セーシェル共和国</b> 首都:モクタシュ 人口:10万人 主要言語:英語、仏語、クレオール語	<b>ソマリア連邦共和国</b> 首都:モガディシュ 人口:1,680万人 主要言語:ソマリ語、アラビア語、英語、イスラミア語	<b>タンザニア連合共和国</b> 首都:ドドマ 人口:6,330万人 主要言語:スワヒリ語、英語
<b>マダガスカル共和国</b> 首都:アンタナナリボ 人口:2,920万人 主要言語:仏語、マダガスカル語	<b>南スーダン共和国</b> 首都:ジュバ 人口:1,160万人 主要言語:英語、部族言語	<b>モザンビーク共和国</b> 首都:ポルトルイス 人口:330万人 主要言語:英語、仏語、クレオール語	<b>ルワンダ共和国</b> 首都:キガリ 人口:1,360万人 主要言語:英語、仏語、キニアルンダ語、スワヒリ語	<b>モーリシャス</b>

### 南部アフリカ(10か国)

<b>アンゴラ共和国</b> 首都:ルアンダ 人口:3,500万人 主要言語:ポルトガル語、ウンブンドゥ語	<b>ザンビア共和国</b> 首都:ルサカ 人口:1,950万人 主要言語:英語、ベント語	<b>ジンバブエ共和国</b> 首都:ハラレ 人口:1,530万人 主要言語:英語、シヨナ語、ンデベシ語	<b>エスワティニ王国</b> 首都:ムババーネ 人口:120万人 主要言語:英語、スワティ語	<b>ナミビア共和国</b> 首都:ウィントフック 人口:260万人 主要言語:英語、アフリカーンス語
<b>ボツワナ共和国</b> 首都:ハボローネ 人口:240万人 主要言語:英語、ツワナ語	<b>マラウイ共和国</b> 首都:リロングウェ 人口:2,020万人 主要言語:英語、チェワ語	<b>南アフリカ共和国</b> 首都:プレトリア 人口:6,080万人 主要言語:英語、アフリカーンス語、ズール語	<b>モザンビーク共和国</b> 首都:マプト 人口:3,310万人 主要言語:ポルトガル語、バンツワネ語	<b>レソト王国</b> 首都:マセリ 人口:220万人 主要言語:英語、ソト語

出典:UNFPA「世界人口白書 2022」



**アルジェリア**  
**カスバ**  
 首都アルジェの丘に建つ旧市街。階段状の狭い路地が家々の隙間を縫うように張り巡らされています。

**アンゴラ**  
**ウェルウィッチア**  
 アンゴラ南部からナミブ砂漠地帯の荒野に生息する奇抜な植物。寿命は平均500~600年、中には2000年以上と推測されるものも。



**ウガンダ**  
**ナイル川の源**  
 「母なる川ナイル」の源はルウェンゾリ山地のマルゲリータ峰。標高5,109mの山頂に広がる氷河の雪解け水がナイルの最初の一滴。

**エジプト**  
**ビール**  
 古代エジプト人も飲んでいたビール。当時、ビールは通貨として流通しており、ピラミッド建設の労賃もビールで支払われていました。

**エスワティニ**  
**スワジ・キャンドル**  
 火を点すと、花や動物などの柄が内側から照らし出され、ステンドグラスのよう。ミル・フィオーレという技術が取り入れられています。



**エチオピア**  
**コーヒーセレモニー**  
 親しい客を迎えたり、祭礼の際に行われるコーヒーによるもてなし。生豆を煎ることから始め、1時間以上かけてゆっくりと楽しみます。

**エリトリア**  
**アールデコの建物**  
 首都アスマラは、イタリア領時代に造られたアールデコ建築が約4,300軒残されており、世界遺産に登録されています。

# 成長大陸アフリカ

豊かな天然資源や未来の大市場を支える若い人口は、いわばアフリカの底力。近年は政治的な安定を背景に海外からの直接投資や内需も拡大し、アフリカ経済はダイナミックに成長しています。特にサブサハラ・アフリカは、GDP、GNIともに世界平均の約2倍という伸び率を誇ります。

## アフリカの経済成長 1 Dynamic Africa

●日本の協力で建てられたセネガルの小学校

●日本の主要産業に不可欠なレアメタル(写真はプラチナ)



写真提供:今村健志朗/JICA

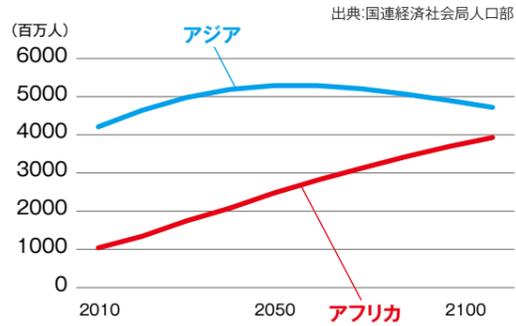


写真提供:JOGMEC

### 可能性を秘めた20億人市場

アジアの人口が2060年前後から減少し始めるのに対し、アフリカの人口は今後10年ごとに約3億人ずつ増加、2050年には2010年の2倍以上、約25億人になる見込みです。

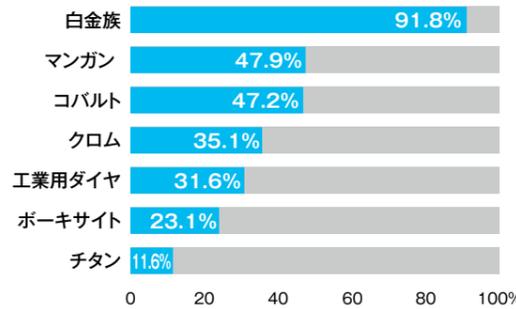
#### ●人口推移予測



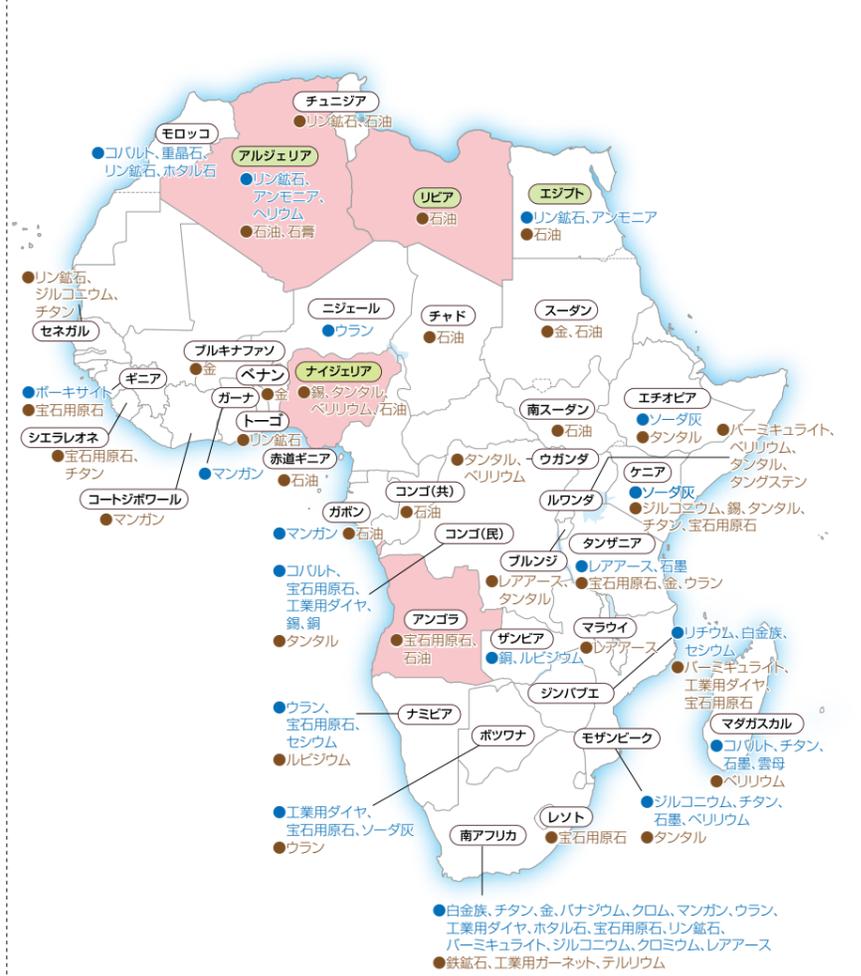
### 豊富な鉱物・エネルギー資源

アフリカは天然資源の宝庫。プラチナやダイヤモンドといった貴重な鉱物をはじめ、「産業のビタミン」とも呼ばれるレアメタルも産出します。

#### ●アフリカの主要鉱物埋蔵量の世界に占める割合(2020年)



#### ●アフリカの鉱物・エネルギー資源



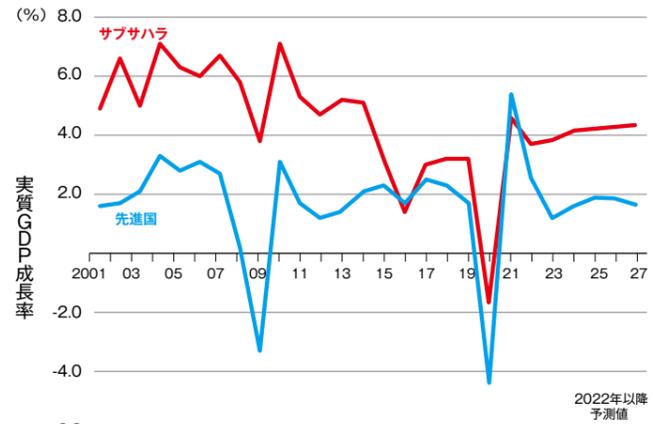
凡例

- 石油埋蔵国世界トップ20
- 天然ガス埋蔵国世界トップ20
- 鉱物資源埋蔵国世界トップ10
- 主な鉱物資源埋蔵国

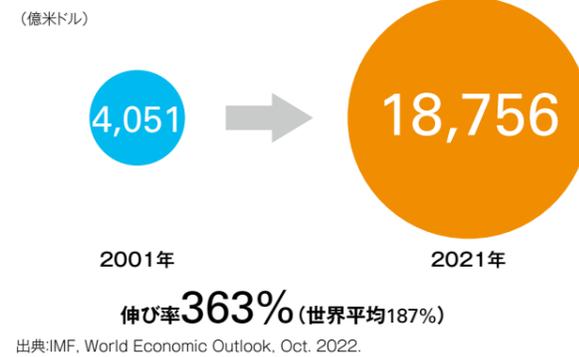
### サブサハラ・アフリカは高い成長を維持

2001年~2021年のサブサハラ・アフリカの平均経済成長率は4.5%で、高所得国の1.7%を上回っています。資源価格の低迷やエボラ出血熱等の感染症の発生により、サブサハラ・アフリカの経済成長率は2013年以降減速し、2020年は新型コロナウイルスの発生により大きく低下しましたが、GDPは2001年と比較して増加しました。

#### ●経済成長率の比較



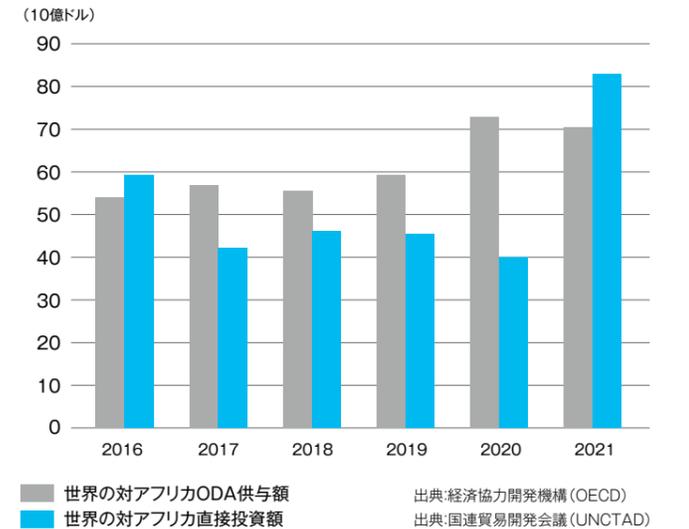
#### ●サブサハラの名目GDPの推移



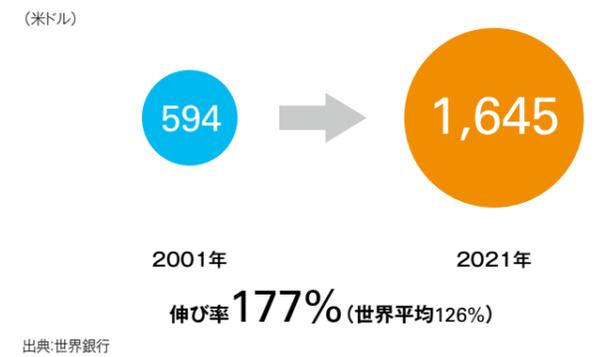
### 新たな投資先として注目を集めるアフリカ

豊富な天然資源に恵まれ、約14億人規模の市場を抱えるアフリカは、近年、世界からの投資先として注目されています。

#### ●世界の対アフリカ援助額と直接投資額の推移



#### ●サブサハラの一人名目GDPの推移



#### ガーナ

##### カカオ

枝だけではなく、幹にも実をつけるカカオの樹。ラグビーボールのような実が幹にいくつもぶら下がっているのは何とも不思議な光景。



#### カーボベルデ

##### 故セザリア・エヴォラ

カーボベルデ出身の女性歌手で、1988年発売の「Sodade」が大ヒット。カーボベルデの音楽モルナを世界に知らしめました。

#### ガボン

##### 熱帯雨林

シュバイツァー博士が医療活動を行った地、ガボン。国土の85%が熱帯雨林に覆われ、ゴリラ等霊長類の貴重な生息地となっています。

#### カメルーン

##### 王国郡

伝統的な文化を維持する多くの王国が存在します。中でも14世紀に建国された西部州ババサム近郊のバムン王国の王宮が有名です。



#### ガンビア

##### 小説「ルーツ」

アフリカ系米国人作家アレックス・ヘイリーの自伝的小説「ルーツ」のモデル国。世界遺産のクンタ・キンテ島は小説の主人公の名前に由来。

#### ギニア

##### 地図

ギニアの国土基本図(地図)を作成したのは日本人。本島建三が率いる測量隊が全土を歩き、5年がかりで地図を完成させました。

#### ギニアビサウ

##### カシューナッツ

ギニアビサウの輸出品の大部分を占めるカシューナッツ。ナッツは、カシューアップルと呼ばれるピーマン型の果実の先端になります。

# 「共に成長するパートナー」として

日本はアフリカと互恵関係であることを心がけてきました。例えば、日本の企業がアフリカに進出する場合も、単に資源の確保だけではなく、得られた利益を社会に還元するため、技術移転や人材育成等に取り組んでいる他、近年は社会課題解決型のビジネス活動も増えてきています。

## アフリカの経済成長 2

Mutually Beneficial Relationship Between Africa and Japan

●日系企業で働くアフリカの女性

●ガーナにおける国道8号線の改修工事



写真提供 住友化学

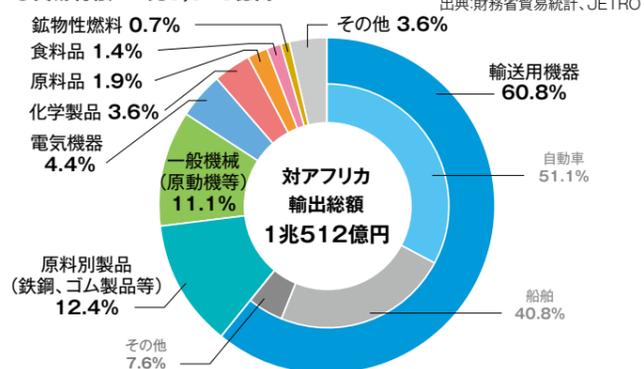


写真提供 飯塚明夫/JICA

### 日本とアフリカの経済関係

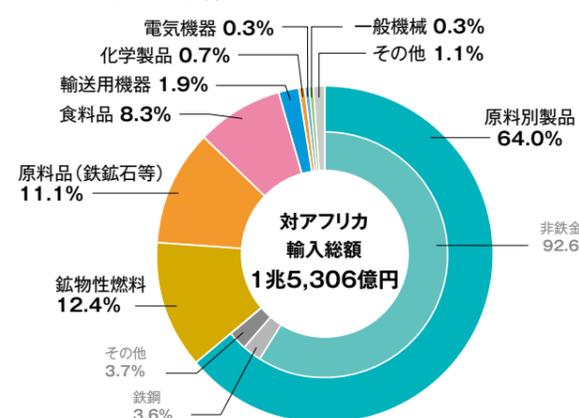
2021年の日本・アフリカの貿易総額は、輸出額が1兆512億円、輸入額が1兆5,306億円となっています。2016年8月に開催されたTI CADVIなどで、日本は、官民合同でアフリカとの貿易・投資を促進することを打ち出しました。

#### ●貿易総額 2兆5,818億円



#### (日本の輸出相手国トップ3 (2021年))

1. リベリア：25.1% 2. 南アフリカ：24.5% 3. エジプト：11.3%



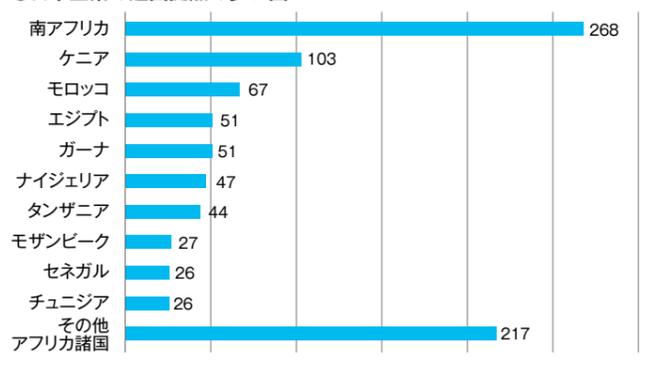
#### (日本の輸入相手国ベスト3 (2021年))

1. 南アフリカ：72.6% 2. ナイジェリア：5.5% 3. アルジェリア：4%

### アフリカに進出している日本企業

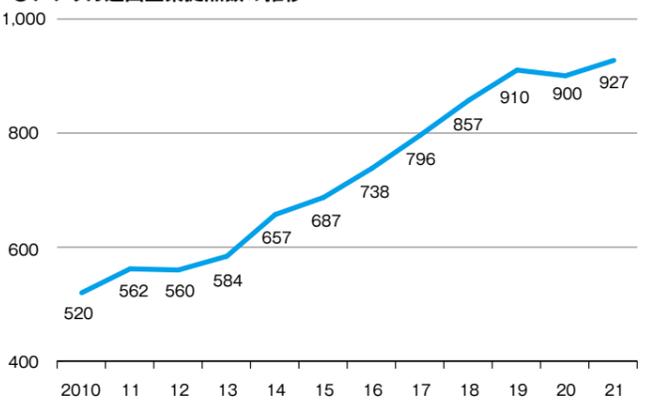
2021年10月時点でアフリカに進出している日系企業の拠点は927。日系企業の進出は年々増えています。製造業(26.1%)、卸売・小売業(23.8%)、サービス業(10.5%)、建設業(6.1%)などの分野に進出しています。

#### ●日本企業の進出拠点の多い国



注) 拠点数には、本邦企業(支店、駐在員事務所)のほか、現地法人(現地法人化された日系企業、本邦企業が出資する海外の現地法人、日本人が海外で興した企業)を含む。

#### ●アフリカ進出企業拠点数の推移



出典: 外務省領事局「海外在留邦人数調査統計」

### スタートアップ支援を含む社会課題解決型ビジネス支援

日本はアフリカに対する取組の1つとして、アフリカの社会課題解決に挑戦する起業家に対する多面的な支援に取り組んでいます。主な支援として、産業人材育成、女性のビジネス参画強化、大企業や大学の研究機関、公的機関等の産学連携ネットワーク等を通じ、継続的にスタートアップを生み出していく「スタートアップ・エコシステム」支援や、ICTなどの先進情報技術を活用した持続可能な都市を目指す「スマートシティ構想」等を行っています。

### アフリカのスタートアップ概要

アフリカでは、約14億の人口マーケットを巻き込みながら、革新的なアイデアで社会課題の解決を図り、短期的に成長する企業(スタートアップ)が次々と台頭しています。特にフィンテック(金融)、アグリテック(農業)等の分野でスタートアップが多く輩出されており、今後ますますの振興が期待されています。

### ●アフリカのスタートアップの資金調達額及び調達件数の推移 (ベンチャーキャピタル・テック系領域)



(出典: AFRICA TECH VENTURE CAPITAL REPORT 2022, Partech Partners)

※ベンチャーキャピタル  
スタートアップやベンチャー企業等の成長が見込める未上場企業に対して投資を行う投資会社  
※テック系  
IT等のテクノロジーを駆使したビジネスを展開している企業

### ●サラヤ 「病院で手の消毒100%プロジェクト」

「100万人の手洗いプロジェクト」をウガンダで開始したサラヤは、2014年にはアルコール手指消毒剤の現地生産・販売を開始し、「病院で手の消毒100%プロジェクト」を始めました。現地のサトウキビ由来のエタノールで作った消毒剤AlsofVは、人々の雇用も創出しながら、アフリカの社会問題を解決し、持続可能なビジネスを目指しています。



写真提供 サラヤ

### ●味の素ファンデーション 「KOKO Plus®」

離乳期の子供の栄養改善のために、2009年に味の素(株)がプロジェクトを開始、ガーナの伝統的な離乳食である発酵コーンのお粥(ココ)に添加する栄養サプリメントとして開発。2017年より公益財団味の素ファンデーションが引き継ぎ、ガーナ・日本・国連組織など産官学民が連携しながら、ガーナ政府を中心に、栄養教育による行動変容を通じた栄養改善を目指しています。



写真提供 味の素ファンデーション

### ●WASSHA 「LEDランタン」

WASSHAはタンザニアにおいて未電化地域向けの電力サービス事業を展開。現地の購買行動の起点であるキオスク(小売店)を介し、自社開発した太陽光充電式のLEDランタンを、所得の安定しない一般消費者にレンタルしています。「WASSHA」とはスワヒリ語で「明かりを灯す」。その名の通り、同社は他の企業とも協力しながら、タンザニアの未電化地域に明かりを届けています。



写真提供 WASSHA



#### ●ケニア

##### バラ

ケニアの輸出品の第1位は紅茶で、第2位が園芸作物。中でもバラは赤道直下かつ高地という栽培条件に恵まれ日本への輸出も急増中。

#### ●コートジボワール

##### 象

国名は「象牙海岸」という意味。国章にはヤシの木や太陽と一緒に象が描かれ、代表チームの愛称は「レゼレファン(象)」。国の重要なシンボルです。

#### ●コモロ

##### シーラカンス

コモロの近海で、たびたび捕獲されるシーラカンス。1990年、鳥羽水族館がコモロ政府と共同で調査を実施し、日本で初めてビデオ撮影に成功。



写真提供 鳥羽水族館

#### ●コンゴ共和国

##### サブール

ファッションに給与の大半をつぎ込みおしゃれをして、ステップを踏みながら街を歩くグループ。武器を持たずに平和を願うのがモットー。



写真提供 日本経済新聞

#### ●コンゴ民主共和国

##### リンガラ

キンシャサ発祥のアフリカ大陸でメジャーな大衆音楽。リンガラ語で歌われることから「リンガラポップス」、「アフリカンルンバ」等と呼ばれ、ユネスコの文化遺産に登録されています。



写真提供 フランス24

#### ●サントメ・プリンシペ

##### ユネスコ生物圏保護区

サントメ島とプリンシペ島、周辺の島々から成る島国で、プリンシペ島は島全体がユネスコの生物圏保護区に指定されています。

# 持続可能な開発目標(SDGs)とアフリカ

近年のアフリカの経済成長には目を見張るものがあります。しかし、その一方で、サブサハラ・アフリカの全人口の約4割が1日1.9ドル未満で生活しており、多くの人が貧困に苦しんでいるのも事実です。日本は、貧困を終わらせることがアフリカの未来や人々の幸せにつながると考え、国際機関やNGO、民間企業と連携して、積極的な支援を行っています。

## 持続可能な開発のための2030アジェンダ

Compass of International Development towards the Sustainable Future

●安全なお産プロジェクトで活動する日本人助産師

●多くのアフリカ人が知っている、黄熱病の研究者、野口英世



写真提供レモンド・ウィルキンソン/JICA



写真提供内閣府

2015年9月、2030年までの国際社会全体の開発目標である「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が国連サミットにて採択されました。このアジェンダの中核となる持続可能な開発目標(SDGs)には、17のゴールと169のターゲットが設定されています。SDGsの達成に向けて、日本は、2016年5月に総理を本部長とするSDGs推進本部を設置しました。この推進本部の下、人間の安全保障の理念に基づいて、政府・自治体・企業・NGO等がそれぞれの強みを活かしながら、オールジャパンでSDGs達成に向けた取組を推進しています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

<b>1</b> 貧困をなくそう	<b>2</b> 飢餓をゼロに	<b>3</b> すべての人に健康と福祉を	<b>4</b> 質の高い教育をみんなに	<b>5</b> ジェンダー平等を実現しよう	<b>6</b> 安全な水とトイレを世界中に
<b>7</b> エネルギーをみんなにそしてクリーンに	<b>8</b> 働きがいも経済成長も	<b>9</b> 産業と技術革新の基盤をつくろう	<b>10</b> 人や国の不平等をなくそう	<b>11</b> 住み続けられるまちづくりを	<b>12</b> つくる責任つかう責任
<b>13</b> 気候変動に具体的な対策を	<b>14</b> 海の豊かさを守ろう	<b>15</b> 陸の豊かさを守ろう	<b>16</b> 平和と公正をすべての人に	<b>17</b> パートナーシップで目標を達成しよう	

### SDGs達成に向けた日本の国際社会における取組

#### 健康的な生活の確保

○日本政府は、SDGs実施を念頭に「誰の健康も取り残さない」との考えの下、日本の知見・技術・資金を動員しつつ、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の達成に向けた協力を進めています。

○2022年5月に策定された「グローバルヘルス戦略」においては、①健康安全保障に資するグローバルヘルス・アーキテクチャーの構築に貢献し、パンデミックを含む公衆衛生危機に対するPPR(予防・備え・対応)を強化すること、そして②人間の安全保障を具現化するため、ポスト・コロナの新たな時代に求められる、より強靱、より公平、かつより持続可能なUHCを達成すること、という二つの政策目標を設定しています。

○同戦略も踏まえ、2022年8月のTICAD8において、三大感染症(エイズ、結核、マラリア)対策に加え、UHCの達成に大きく貢献する保健システム強化のため、グローバルファンドに対し、今後3年間で最大10.8億ドルの拠出を行うことを発表しました。

○また、新型コロナウイルス感染症との世界的な闘いにおいては、二国間支援及び国際機関を通じた支援を活用し、約50億ドルの支援を実施してきました。COVAXファシリティへの最大15億ドルの財政支援に加え、アフリカ8カ国を含む世界32カ国・地域へのワクチンの供与、及び途上国の一人ひとりにワクチンを届ける「ラスト・ワン・マイル」支援の実施等を通して、現下の感染症危機の克服に貢献し、さらには、将来の健康危機への備えにも資する保健システムを強化し、より幅広い分野での健康安全保障を確実にするための国際的な環境の整備に貢献しました。



ラスト・ワン・マイル支援による新型コロナウイルス簡易検査キット供与(ガーナ)

(注) UHC: 全ての人が基本的保健サービスを必要な時に負担可能な費用で享受できること。

#### ジェンダー平等と女性のエンパワメント

○日本政府は、2016年5月に「女性の活躍推進のための開発戦略」を発表し、この分野における国際協力を強化しています。この開発戦略は、①女性と女児の権利の尊重・脆弱な状況の改善、②女性の能力発揮のための基盤の整備、③政治、経済、公共分野への女性の参画とリーダー

シップ向上を重点分野としており、具体的には、女性に配慮したインフラ整備や母子保健サービスの拡大、女子教育や係系分野で活躍する女性の拡大、防災分野をはじめとする女性の指導的役割への参画推進等の支援を通じて、女性の活躍推進と質の高い成長を目指しています。

○たとえば、モザンビークの中等教育への就学率が低い地域において、教室や女子トイレの整備等、女子の学習環境を改善するための支援を実施したほか、コンゴ民主共和国においては、女性の人権と安全を脅かす課題に対処するため、女性警察官の育成事業を支援しました。

○これらの協力を推進するため、日本は、2019年に3年間で少なくとも400万人の途上国の女性たちに対する質の高い教育や人材育成の機会の提供を表明し、2021年には5年間で少なくとも750万人の途上国の女子への質の高い教育及び人材育成の機会の提供を表明するなど、支援を行っています。



市民と平和のための警察研修実施能力強化事業(コンゴ民主共和国)(写真提供:JICA)

#### 実施手段とパートナーシップの強化

○SDGsは、17のゴールと169のターゲットがあり、それぞれの分野に関心を持つステークホルダーが協調し、SDGsの実施に当たる必要があります。

○国連人間の安全保障基金は、1999年に日本が主導して国連に設置された基金であり、人間の安全保障の理念に基づき、分野横断的かつ包括的なプロジェクトを実施することで、人間の安全保障を脅かす根本原因を取り除くことを重視しています。特に、複数の国際機関が共同でプロジェクトを実施することを義務づけており、このことは、活性化されたグローバル・パートナーシップを標榜するSDGsを実施するために有益なアプローチと言えます。

○日本は、1999年に創設に尽力して以降、一貫してこの基金を支援してきており、2021年までに4.5億ドル以上の拠出を通じ、100以上の国・地域において、282プロジェクトを実施することに貢献してきました。



エジプトにおけるバイオマスエネルギーを活用した起業家支援プロジェクト(5つの国際機関による合同プロジェクト)



#### ザンビア

##### コバルト

埋蔵量・生産量とも世界5指に入るコバルト大国。コバルトはリチウム電池の材料となるレアメタルで、対日輸出の主要品目です。

#### シエラレオネ

##### ダイヤモンド

シエラレオネ産のダイヤモンドは、最高級の宝石用原石の割合が高いことが特徴。映画「ブラッド・ダイヤモンド」の舞台にも。

#### ジブチ

##### アッサル湖

ジブチの中央にあるアッサル湖は、死海よりも塩分濃度が高い塩湖。ここでは、真珠のように丸い塩の結晶を見ることが出来ます。



写真提供船橋 博/JICA

#### ジンバブエ

##### ビクトリアの滝

ザンビアとの国境にまたがる世界三大瀑布の一つ。地元では「モシ・オトウニヤ(雷鳴轟く水煙)」と呼ばれ、数キロ先からでも水煙が見えます。



写真提供 庄司麻治/JICA

#### スーダン

##### 2つのナイル

青ナイルと白ナイルが首都ハルツームで合流。橋の上から、色の異なる両ナイルが合流する様子を見ることが出来ます。

#### セーシェル

##### 地上最後の楽園

世界に名だたるリゾート・アイランド。イギリスのウィリアム王子とキャサリン妃の新婚旅行先としても話題になりました。

#### 赤道ギニア

##### バンヤの木

国花は、国旗にも描かれているバンヤの木です。種子から植物油がとれるため、「神の木」と呼ばれています。

# 成長の礎、平和と安定のために

1990年代に比べ、多くの紛争や内戦が収束したものの、サヘル地域、チャド湖地域、ソマリア、コンゴ民主共和国東部、中央アフリカ、南スーダン、リビアなど依然として不安定な国・地域もあります。我が国が平和を維持する能力を高められるよう、PKO訓練センターに対して資金的・人的な支援を続けています。

## 平和と安定 Peace and Stability

●独立記念式典に集まり、喜びを分かち合う南スーダン市民



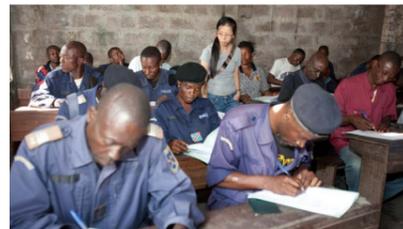
写真提供: JICA

### 日本が行うアフリカの平和と安定のための取組

アフリカには、複雑な背景をもつ紛争やテロなどの脅威が残っています。国づくりの基礎となる平和と安定を実現すべく、日本は国連PKOへの要員派遣やPKO訓練センターを通じて貢献しています。また、アフリカ諸国が自らの手で平和と安定を実現できるよう、日本は様々な支援を行っています。



南スーダンのジュバにおいて道路整備を行う自衛隊の施設部隊 (写真提供: 防衛省)



コンゴ(民)における警察研修 (写真提供: 久野真一/JICA)



シエラレオネの家電所で現地技術者に計器の使用方法を教えるJICA専門家 (写真提供: 飯塚明夫/JICA)

### ●国連PKOが展開する地域



□ 国連PKOが展開する地域

### ●現在アフリカに展開する国連PKO

(注: 軍事・警察要員のみ)

国連PKO	国連PKO	要員数	展開開始
国連西サハラ住民投票監視団	(MINURSO)	223名	1991年4月~
国連コンゴ(民)安定化ミッション	(MONUSCO)	14,641名	2010年7月~
国連アビエ暫定治安部隊	(UNISFA)	2,621名	2011年6月~
国連南スーダン共和国ミッション	(UNMISS)	15,192名	2011年7月~
国連マリ多面的統合安定化ミッション	(MINUSMA)	14,047名	2013年4月~
国連中央アフリカ多面的統合安定化ミッション	(MINUSCA)	15,368名	2014年4月~

出典: 国連平和活動局HP 2022年10月現在

### アフリカの平和と安定のため汗を流す日本人

1993年、自衛隊が国連モザンビーク活動(ONUMOZ)に派遣されて以来、アフリカでの平和維持活動(PKO)等に多くの自衛官・海上保安官が参加してきており、アフリカの平和と安定のため活躍しています。

### ●アフリカにおける平和と安定を産み、育て、守るための日本の協力

#### 国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)で活躍する自衛隊

2011年7月に独立した南スーダンでは、UNMISSに派遣されている司令部要員4名が活動しています。  
※施設隊は2017年5月末に活動を終了



写真提供: 防衛省

2009年から、ソマリア沖・アデン湾での商船の安全航行の確保のため、日本の護衛艦・哨戒機が活動しています。日本を含む各国の活動は海賊等事案の減少に大きく貢献しています。



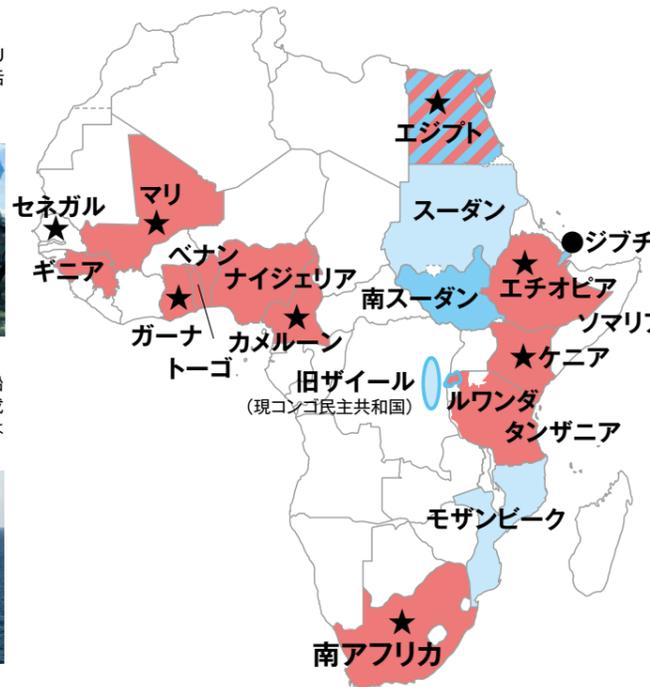
写真提供: 防衛省

#### 多国籍部隊・監視団(MFO)で活躍する自衛隊

エジプトのシナイ半島で平和維持活動を行うMFOに、2019年4月から、自衛官2名が派遣され、司令部要員として活動しています。



写真提供: 内閣府



- 現在、自衛隊から司令部要員を派遣している国
- 現在、自衛隊等が活動している国
- これまでに日本がPKO訓練センターを支援した国
- これまでに自衛隊等が活動した国・地域
- ★ 日本人講師を派遣した国

#### 平和維持訓練センター(PKO訓練センター)への支援

日本は、平和維持活動等に従事するアフリカ人要員を養成するため、PKO訓練センターに様々な支援をしています。平和維持に関する日本の知識と経験をアフリカ諸国と共有するため、自衛官や民間の専門家を講師として派遣するのも、その一つです。

#### エチオピア平和支援訓練研究センター

エチオピア平和支援訓練センター(当時の設立に際し、日本の自衛官が派遣され、国際コンサルタントとして、同センターで行われるPKOミッションに必要な教育コースのカリキュラムの策定を行い、現地関係者から高い評価を受けています。



写真提供: 防衛省

#### 国連三角パートナーシップ・プログラムを通じた支援

国連、支援国及び要員派遣国の3者が互いに協力し、国連PKOに派遣される要員の訓練や装備品の提供を行う同プログラムを日本は主導しています。この枠組みの下、自衛官等を教官として派遣し、アフリカ諸国の施設要員(道路整備等を実施)の能力構築をしています。この支援を通じ、国連PKOに派遣された施設部隊が早期に展開できるようになることを目指します。2019年には医療訓練も開始されました。



写真提供: 防衛省

## 素顔のアフリカ

### セネガル

#### ユッサー・ンドゥール

セネガルが生んだ世界的なポップ・アーティスト。メッセージ性の強い作品から「歌うジャーナリスト」とも呼ばれています。

### ソマリア

#### イルワド・エルマン

2019年のノーベル平和賞候補。「銃を捨てペンを持とう」と標榜し、暗殺された父の意志を継ぎ、同じく活動家の母と活躍中。

### タンザニア

#### キリマンジャロ

標高5,895m、アフリカ大陸の最高峰。山頂にある氷河は、「ヘミングウェイの短編『キリマンジャロの雪』のエピグラフにも登場。



### チャド

#### 人類最古の祖先「トゥーマイ」

2002年に世界最古の頭骨「トゥーマイ」がフランスの調査隊によって発見され、2005年の「愛・地球博」で公開されました。

### 中央アフリカ

#### マノヴォ・グンダ・サン・フロリス国立公園

面積1万7,400km<sup>2</sup>という広大な国立公園。北部の氾濫原には多くの水鳥が、南部のサバンナにはアフリカゾウやクワサイ等が息を

### チュニジア

#### ハリッサ

赤唐辛子をベースに、コリアンダーやクミン等のスパイス、にんにく、オリーブオイル等を加えて作る万能調味料。クスクスに添えて。



### トーゴ

#### ドイツ文化

旧宗主国ドイツの影響を受け、ビールとソーセージの美味しさは天下一品! アフリカNo.1との呼び声が高いビールを生産しています。

# 日本が主導するアフリカ開発 TICAD

アフリカ開発会議 TICAD led by Japan



2050年には世界の人口の4分の1を占めると言われるアフリカは、若く、希望にあふれ、ダイナミックな成長が期待できる大陸です。しかし、貧困や紛争、テロなど、世界が直面する多くの問題も集中しています。これらの課題を解決するため、日本は国際社会の責任ある一員としての役割を果たしたいと考えています。

アフリカと友好な関係を築くことは、日本外交の基盤強化につながり、アフリカの豊富な天然資源や約14億人以上の市場は、日本企業にとって大きなビジネスチャンスをもたらします。1993年以降、四半世紀以上にわたって日本はTICADを通じてアフリカ開発支援を主導してきました。日本とアフリカはともに手を携え、大切なパートナーとして前進しています。

## アフリカ開発会議 (TICAD) とは

TICADとは、Tokyo International Conference on African Developmentの略称で、アフリカの開発をテーマとする国際会議です。1993年以降、日本が主導し、国連や国連開発計画 (UNDP)、世界銀行、アフリカ連合委員会 (AUC) と共同で開催しています。2013年のTICADVまでは、5年に1度、日本で開催していましたが、2016年のTICADVIから、3年に1度、日本とアフリカで相互開催しています。これに加え、閣僚級のフォローアップ会合を開催しています。2022年8月にはチュニジアのチュニスでTICAD8が開催され、アフリカの開発について幅広い議論を行いました。



TICAD8開会式で演説する岸田総理 (オンライン参加) (写真提供: 首相官邸)

### ●TICADの歩み

**1993 TICAD I**  
(第1回アフリカ開発会議、東京)  
「東京宣言」を採択。冷戦終結後、国際社会のアフリカへの関心が薄れる中、アフリカ開発への関心の再喚起に貢献。

**1998 TICAD II**  
(第2回アフリカ開発会議、東京)  
数値目標を含む優先的政策行動を明記した「東京行動計画」を採択。TICADの基本原則である「オーナーシップ (自助努力) とパートナーシップ」の理念が確立。

**2003 TICAD III**  
(第3回アフリカ開発会議、東京)  
TICADプロセスの将来への方向性と重点的アプローチを示す「TICAD10周年宣言」を採択。「人間の安全保障」が注目を浴びる。24名の国家元首、首脳を含む1,000名以上が参加。

**2008 TICAD IV**  
(第4回アフリカ開発会議、横浜)  
「横浜宣言」を採択し、「横浜行動計画」及び「TICADフォローアップ・メカニズム」を発表。アフリカ51か国 (41名の国家元首・首脳級)、開発パートナー国及びアジア諸国34か国、77の地域・国際機関代表、民間セクターや市民社会代表等、3,000名以上が参加。

**2013 TICAD V**  
(第5回アフリカ開発会議、横浜)  
「横浜宣言2013」、「横浜行動計画2013-2017」を

採択。アフリカ51か国 (39名の国家元首・首脳級)、開発パートナー諸国及びアジア諸国31か国、72の地域・国際機関の代表、民間セクターや市民社会の代表等、過去最大の約4,500名以上が参加し、日本が主催する最大規模の国際会議となりました。

**2016 TICAD VI**  
(第6回アフリカ開発会議、ナイロビ)  
TICAD史上発のアフリカ開催 (ケニア、ナイロビ)。「ナイロビ宣言」、「ナイロビ実施計画」を採択。アフリカ53か国、開発パートナー諸国及びアジア諸国、国際機関及び地域機関の代表、民間セクター及びNGO等市民社会の代表等、11,000名以上が参加。

**2019 TICAD 7**  
(第7回アフリカ開発会議、横浜)  
42名の首脳級参加者 (過去最大) を含むアフリカ53か国、52か国の開発パートナー諸国、108の国際機関及び地域機関の代表並びに民間セクターやNGO等市民社会の代表等、10,000名以上が参加。TICAD史上初めて民間企業を公式なパートナーとして位置づけるなど、ビジネス促進が議論の中心となり、「横浜宣言2019」を採択し、「横浜行動計画2019」をその付属文書として発表しました。

**2022 TICAD 8**  
(第8回アフリカ開発会議、チュニス)  
2度目となるアフリカ開催 (チュニジア、チュニス)。新型コロナウイルスの影響をふまえ、オンラインも活用した形で開催され、日本とアフリカ諸国に加え、国際機関、民間企業、市民社会等が参加。閉会式では「TICAD8チュニス宣言」を採択。

## TICAD 8

TICAD8では、経済・社会・平和と安定の3つの全体会合が開かれたほか、ビジネスフォーラム、第4回野口英世アフリカ賞授賞式を実施しました。

日本は1993年にTICADを立ち上げて以降、アフリカ自らが主導する開発を支援していくとの精神で取り組んできました。今回のTICAD8では、そうした日本らしいアプローチを強調し、日本はアフリカと「共に成長するパートナー」として、「人」に着目した取組を推進していくとのメッセージを力強く打ち出しました。

全体会合1 (経済) では、岸田総理から、新型コロナやウクライナ情勢を受け、深刻な影響を受けるアフリカの経済・社会に対し、民間投資の促進、透明で公正な開発金融の確保、グリーン経済の促進、食料安全保障の強化を通じ、強靱なアフリカ経済の実現に向け、貢献していく旨を発表しました。不透明・不公正な開発金融により、アフリカの開発が妨げられてはならないとの認識を一にしました。

全体会合2 (社会) では、岸田総理から、アフリカの成長を堅実なものとする上でも、質の高い生活環境を整えることが必須であり、保健、教育、環境に重点的に取り組んでいく旨を発表しました。また新型コロナウイルス等の感染症対策や気候変動など、人類共通の課題に対して、国際社会が連帯して立ち向かう必



要性を改めてアフリカ諸国と共有しました。

全体会合3 (平和と安定) では、岸田総理から、司法・行政分野の制度構築・ガバナンス強化を通じた法の支配の推進や、憲法秩序への回復・民主主義の定着に向けたアフリカ自身の取組を力強く後押しする考えを発表しました。また行政サービス改善に向けた取組を含むコミュニティ基盤強化への貢献も表明しました。



## 包摂的なフォーラムとしてのTICAD

TICADは日本が主導し、国連や国連開発計画 (UNDP)、世界銀行、アフリカ連合委員会 (AUC) と共同で開催しています。また、TICADはアフリカ諸国のみならず、開発に携わる国際機関、パートナー諸国、アジア諸国、民間企業、市民社会も参加するマルチの枠組みです。これにより、国際社会が広く知恵と努力を結集し、真にアフリカの開発にとって実のある議論を行ってきました。



### ナイジェリア

#### ハリウッド

ハリウッド、ハリウッドと並ぶ映画産業地。映画館での上映ではなく、主にオンラインやDVDで視聴されているところが特徴。

### ナミビア

#### ナミブ砂漠

世界最古 (約8,000万歳) と言われる世界一美しい砂漠。日の出、日の入り前後に赤く染まり、幻想的な風景が楽しめます。



### ニジェール

#### トゥアレグの人びと

ラクダのキャラバンを率いて砂漠を旅するトゥアレグの人びと。ターバンを巻き、青い民族衣装を着ているため「青の民」とも呼ばれます。

### ブルキナファソ

#### バイク

ブルキナファソという国名は現地語で「高潔な人々の国」の意。路上が自転車やバイクであふれても、駐輪場では驚くほどの整列駐車!



### ブルンジ

#### 紅茶

隣国ルワンダと同じように、丘の連なる高原の国。その地形を活かして栽培されたコーヒーや紅茶は、日本にも輸入されています。

### ベナン

#### ブードゥー教

ベナンはブードゥー教発祥の地。日本の八百万の神に似て、ブードゥー教にも鉄の神様や蛇の神様といったユニークな神様がいっぱい!

### ボツワナ

#### チヨベ国立公園

北東部に広がる1万1,000km<sup>2</sup>の国立公園には、約12万頭のゾウが生息。チヨベ川のリバークルーズではカバやワニを見ることも。

# TICADプロセスの発展

## アフリカ開発会議

Development of TICAD Process



写真提供 今村健志/JICA

### TICAD8とアフリカへのビジネス展開

TICAD8は「共に成長するパートナー」であるアフリカの潜在力を日本企業が活かすための機会となりました。

日本の対アフリカ投資を推進すべく、活力ある日本とアフリカの若者が取り組むスタートアップに焦点を当て、日本経済界による、100億円超の「スタートアップ向け投資ファンド」の計画を政府として歓迎しました。

対面で開催されたビジネス・フォーラムでは、日本企業約100名（スタートアップ約10名を含む）、アフリカ企業約100名、アフリカ各国の経済閣僚、開発金融機関、日本の公的機関等から計約300名が参加し、日本とアフリカとのビジネス関係強化を議論しました。また、日本企業がアフリカ諸国等との間で92件のMOU署名に至ったことを歓迎しました。

さらに、アフリカで事業活動を行う民間企業が直面する様々な課題を解決するためのメカニズムとしての「二国間ビジネス環境改善委員会」の立ち上げに新たに4か国が合意しました。

### TICAD8で採択された「TICAD8チュニス宣言」

TICAD8で成果文書として採択された「TICAD8チュニス宣言」は、アフリカの潜在性を世界の成長の原動力と捉え、「人への投資」が重要との認識の下、「経済」、「社会」及び「平和と安定」の三本柱に据えつつ、具体的な指針や様々な取組を定めたものです。また同宣言では、多国間主義が極めて重要との認識の下、国連憲章を含む国際法及び全ての国の主権と領土の一体性の尊重の原則の下での協働、国際法による紛争の平和的解決の追求を強調しているほか、自由で開かれたインド太平洋（FOIP）のビジョンに好意的に留意しています。



写真提供:首相官邸

### TICAD 8における「日本の取組」

日本はTICAD 8において、日本らしい施策を集めた「日本の取組」を発表しました。

#### 経済

新型コロナやウクライナ情勢による影響からの「より良い回復」を実現し、人々の生活を守るため、自由で開かれた国際経済システムを強化するとともに、各国のグリーン成長を支援し、強靱で持続可能なアフリカの実現を目指します。また、活力ある若者に焦点を当て、民間企業・スタートアップの進出を後押ししていきます。



タンザニアのナマンゴOSBP施設。手前に入出国管理、奥に税関があり、ケニアからの出国、タンザニアへの入国がワンストップで手続できる(写真提供:JICA)

#### 社会

アフリカで人口増加が続く中、一人一人を大切に、人への投資を強化する息の長い取組を通じて、人間の安全保障、SDGs、アジェンダ2063を踏まえ、顕在化した格差の是正と質の高い生活環境の実現を目指しています。



マダガスカルみんなの学校プロジェクトで行われている補習授業(写真提供:JICA)

#### 平和と安定

アフリカのオーナーシップを尊重しつつ、人間の安全保障及び平和と安定を阻害する根本原因にアプローチする「アフリカの平和と安定に向けた新たなアプローチ」(NAPSA)の下、経済成長・投資や生活向上の前提となる平和と安定の実現に向けたアフリカ自身の取組を後押しし、人々が安心して暮らせる社会の実現を目指します。



ウガンダに滞在する難民たちがホストコミュニティの住民と共に稲作技術を学ぶ様子(写真提供:久野志/JICA)

### ABEイニシアティブ



アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ「ABEイニシアティブ」(African Business Education Initiative for Youth)は、アフリカの産業人材育成と日本企業のアフリカビジネスの水先案内人となるような人材の育成を目的とし、JICAを通じて、TICAD V以降、アフリカ54か国の約2,000人の若者に対し、日本の大学での修士号取得の機会や、日本企業などでのインターンシップ、日本語研修、ビジネス・スキル研修などのビジネス・プログラムを提供しています。また、将来の職長や工場長などの現場人材を育成する取組も行っており、AOTS等を通じて、2016年からの6年間で約2,400人の現場人材を受け入れています。

例えば、ルワンダから来日したムガルラさんは、神戸情報大学院大学でICTについて学び、来日中は、避雷器の生産を行っている日本企業に

てインターンを経験しました。インターン期間中にルワンダの落雷被害が深刻であることを同企業に伝えたところ、同企業がルワンダでのビジネスに関心を持つに至り、現地調査の実施にまで発展しました。ムガルラさんは帰国後に起業し、この日本企業の現地パートナーとして、ルワンダでのビジネス展開及び製品・サービス普及に向けて尽力しています。

ABEイニシアティブをきっかけにアフリカでのビジネスを進める日本企業も増加しており、2019年に横浜で開催されたTICAD7では、ABEイニシアティブの更なる継続・拡充が表明されました。今後もABEイニシアティブに参加したアフリカの若者たちは、日本企業の水先案内人として活躍することが期待されます。



#### マダガスカル

##### 豊かな動植物

独自の動植物相を持ち、「星の王子様」に登場するバオバブのほとんどがマダガスカルの固有種。バニラの世界最大産地。



#### マラウイ

##### マラウイ湖

国土の約5分の1を占めるマラウイ湖には500種類以上の魚類が生息し、そのほとんどが固有種。南端のマラウイ湖国立公園は世界遺産。



#### マリ

##### グリオ

「グリオ」と呼ばれる世襲制の音楽家の家系があり、祭りや祝い事には彼らが呼ばれ、楽器を演奏しながら一族を讃える歌を歌います。

#### 南アフリカ

##### 故ネルソン・マンデラ元大統領

政治犯として投獄されたロベン島刑務所で、同志と英語等を学び合って士気を保ったという話は「ロベン島大学」として語り継がれています。

#### 南スーダン

##### 全国スポーツ大会

第6回目となる全国スポーツ大会を首都ジュバで実施。第1回は南スーダンに派遣された自衛隊派遣施設が、グラウンドを整地。



#### モザンビーク

##### モザンビーク島

インド洋貿易の中継地、キリスト教伝道の拠点となった島。1586年には天正遣欧少年使節一行が日本へ帰る途中に立ち寄っています。

# アフリカ、それは「いのち」の鼓動

様々な民族が交錯した痕跡を独特の文化として残す、北アフリカのマグレブと呼ばれる地域。そして、砂漠から熱帯雨林まで厳しくも豊かな自然の宝庫、サブサハラ・アフリカ。一言では表しきれない多様性がアフリカの魅力。音楽やダンス、スポーツからも、「いのち」の鼓動が聞こえてくるようです。

## 文化・スポーツ Africa, the Power of Life

●日本の支援で建設された小学校の完工式で伝統舞踊を披露する女性たち

●日本中が応援したサッカー・ワールドカップ南アフリカ大会(2010年)

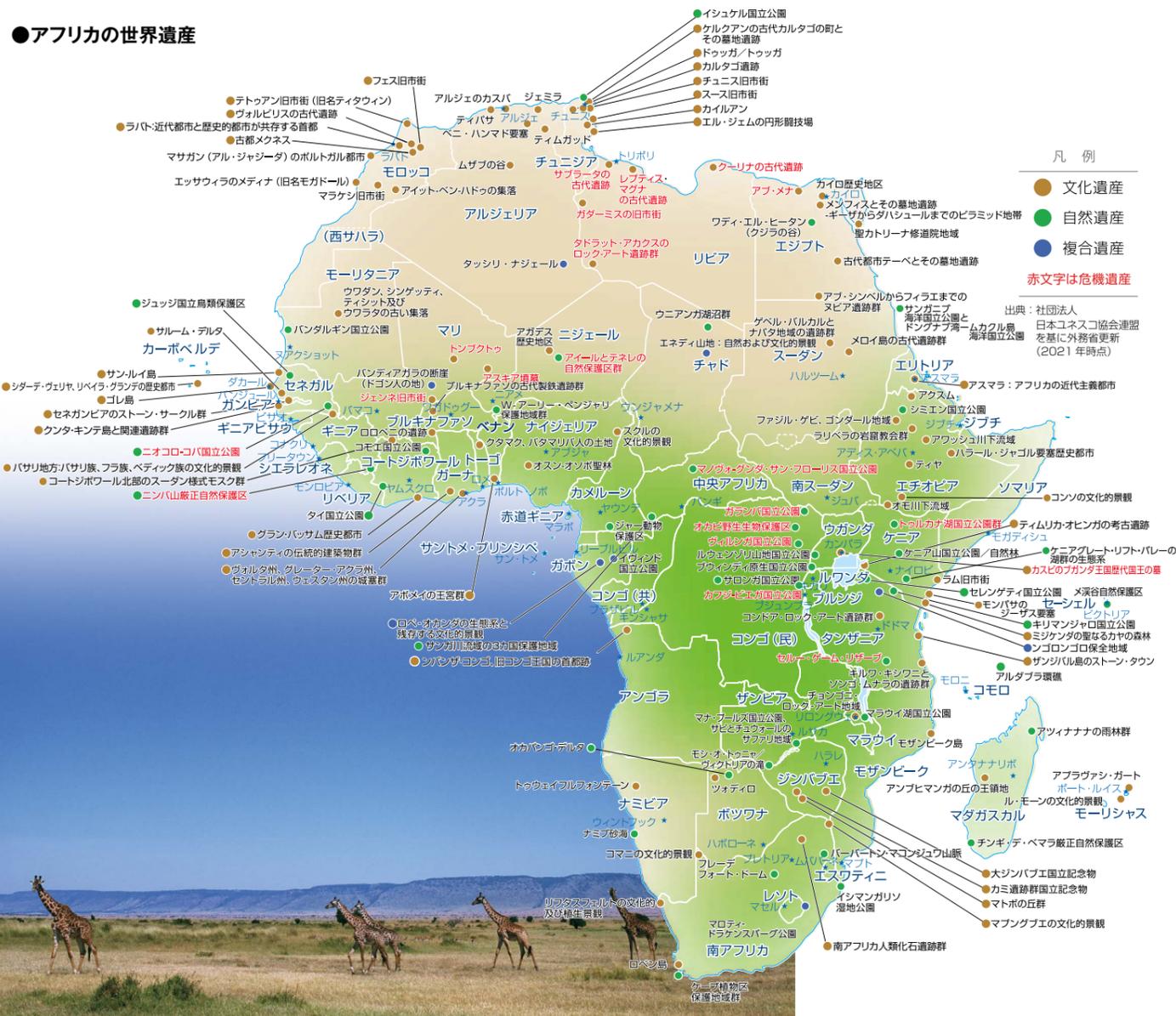


写真提供レイモンド・ウィルキンソン/JICA

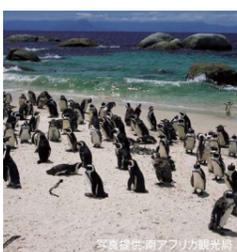


写真提供AP/アフロ

### ●アフリカの世界遺産



### 知られざる観光大陸 また行きたくなるアフリカ



●サファリ  
サバナでのゲーム・ドライブはもちろん、最近ではポートに乗ってカバやワニを見に行く水上サファリや、野生のペンギンが間近で見られる南アフリカのボルダーズ・ビーチも人気です。

●ビーチリゾート  
意外に知られていないのが、海的美しさです。例えば、ケニアのモンバサ、タンザニアのザンジバル島、マダガスカル島のノシ・ベ島。透明度の高い海と白砂のビーチ、手付かずの大自然を満喫できます。

●泥のモスク  
マリ文化遺産「ジエンベ旧市街」のシンボルが、独特のフォルムを持つ泥のモスク。ニジェール川が運んできた泥を、年に一度、町の人々が総出で壁に塗り、モスクの化粧直しを行います。

●希少な動植物  
生物多様性豊かなマダガスカル島。毎年、多くの新種の野生生物が発見されています。体重30g・世界最小の霊長類マダムベルテネズミクツネザルもその一つで、絶滅危惧種です。

### スポーツ界でも 強いアフリカ続々!



●ラグビー  
南アフリカのラグビーは世界トップクラス。2015年のワールドカップでは日本が南アフリカに勝利し、「ブライTONの奇跡」として話題に。2019年日本大会では南アフリカは3度目の優勝を果たしました。

●セネガル相撲  
相撲というよりはレスリングに近い、セネガルの伝統的な格闘技。非常に人気があり、試合はテレビ中継され、チャンピオンは文字通り国民的英雄に。試合前には魔除けの儀式も行われます。

●マラソン  
男女ともにマラソンの上位記録10名は、ケニアとエチオピアの2カ国でほぼ独占するほどの強さを誇ります。写真は1964年東京五輪の金メダリスト、エチオピアの「裸足のアベ」ことアベベ・ビキラ選手。

●日本武道  
アフリカでは柔道や空手が人気。例えば、ボツワナの空手の競技人口は約6,000人で、世界大会で入賞する選手も輩出。また小中学校でも青少年教育の一環として空手が盛んに行われています。

### 暮らしを知る アフリカに触れる



●コメが主食  
アフリカには日本以上にコメをたくさん食べる国があり、西部アフリカの国々では古くからコメを食べる習慣が定着しています。セネガルの炊き込みご飯「チエブゼン」はユネスコ無形文化遺産に登録されています。

●ジエンベ  
アフリカの代表的な伝統楽器「ジエンベ」。ジエンベの神様と言われるギニア出身のママディ・ケイタ氏との交流をきっかけに鹿児島県三島村では、1994年からジエンベを通じた交流が続いています。

●サハラの岩塩  
サハラ砂漠の真ん中、マリ北部のタウデニ地方に広がる岩塩の鉱床から切り出された岩塩は、ラクダのキャラバンによって南に運ばれ、金と交換されていました。岩塩は今もサハラの重要な交易品です。

●カンガ  
鮮やかで大胆なデザインの花柄の布をお洒落に着こなすアフリカの女性たち。東部アフリカの「カンガ」には1枚1枚異なるメッセージがプリントされており、この言葉も大切な選びのポイントです。

17

### 素顔の アフリカ

**モーリシャス**  
リゾート  
「インド洋の貴婦人」と呼ばれ、ヨーロッパで人気の高級リゾート地。日本では、遠洋マクロ漁業の中継・補給地として知られています。



**モーリタニア**  
カラスミ  
モーリタニアの隠れた名産品が、高級珍味のカラスミ。日本で購入するより安価で、喜ばれるお土産となっています。

**モロッコ**  
タジン鍋  
日本でもブームになったタジン鍋料理。モロッコではジャガイモやニンジン等の野菜とソースを鶏肉や羊肉と一緒に蒸し煮にします。

**リビア**  
リビアヤマメコ  
ペットとして飼われているイエネコの祖先。アフリカヤマメコとも言われ、体長約60cm、小型ほ乳類や鳥類、爬虫類等が捕食対象。

**リベリア**  
解放奴隷の国  
1847年、アメリカから解放された奴隷によって、アフリカ最初の共和国として独立。国名は自由(Liberty)にちなんでいます。

**ルワンダ**  
ICT  
コーヒーやマウンテンゴリラで知られるルワンダですが、ICT立国となることを目指し、若手起業家育成にも力を入れています。

**レプト**  
民族衣装  
レプトの民族衣装は多彩な毛布。地方ではハント・ハットという三角錐状の帽子と毛布を身につけた伝統的な格好で暮らす人もいます。





表紙写真提供: 上から1枚目(佐藤浩治/JICA)、3-4枚目(今村健志朗/JICA)  
裏表紙写真提供: 上から1枚目「ルワンダの子供たち(写真提供:今村健志朗/JICA)」、2枚目「アンゴラの親子(写真提供:長倉洋海/JICA)」、3枚目「エチオピアの子供たち(写真提供:久野武志/JICA)」、  
4枚目「ジンバブエのパオバの木(写真提供:庄司康治/JICA)」、5枚目「ケニアの若いシマウマ(写真提供:久野真一/JICA)」